

長期目標に向けての技術の挑戦  
及びIPCC報告書に期待すること  
パネルディスカッション

地球環境産業技術研究機構 (RITE)

参与 山口光恒

# 今後のIPCC報告書

- 1.5°C (願望) 目標に関する特別報告書  
2018年(1.5°Cの影響と排出経路。この解釈)  
Negative emissionの扱い、欧州の素早い動き
- 上記以外の特別報告書(上記以外2-3件)  
土地利用・農業・水等、極地の気候変動、地域の気候変動  
等各国から出されたテーマから選定
- 第6次評価報告書 2020年以降
- 執筆者は各報告書ごとに選定

# IPCCへの勧告 (2010年10月)

- Climate gate事件 (2009年11月～) と InterAcademy Councilの勧告
- 4つの勧告分野
  - ガバナンスと管理、査読プロセス、不確実性の明確化とコミュニケーション、透明性、
- 具体例
  - ・IPCCの指導者は特定の政策を推奨しているように受け取られる発言をしていると批判されている。これはIPCCへの信頼性を傷つけるものである (ガバナンス)
  - ・確率の定量化 (likelihood scale) は十分な証拠がある場合のみきちんとした定義の下で行うべし (不確実性の扱い)
  - ・執筆者選定プロセスの透明性、あるいは選定基準の欠如は、選定に際してのバイアス問題を生じ、科学者等から見たIPCC評価報告書への信頼性を引き下げるものである (透明性、IPCC マフィア)

# 勧告は生かされたか (第5次報告 2014年)

- 損害は大きく

まず経済的損害把握の困難性を強調した上で、「工業化から2°C上昇の損害は所得の0.2~2.0%程度、しかしこれより大きくなる可能性が大きい」(AR5/WG2/SPM)

- コストは小さく

2°C目標達成のコストは2100年には所得の4.8%程度、但し消費は年間1.6~3%程度伸びるので、これはその伸び率をたった0.06%下げるに過ぎない(前提は世界共通炭素税、AR5/Syn)

## 疑問点:

- 1)なぜ損害を消費の伸びとの関係でとらえないのか
- 2)なぜコストはこれより大きくなることを書かないのか
- 3)2°C目標を推奨しているように受け取られる?

- 気候感度問題

# IPCC報告書への期待

- 不確実性の明示と表示方法（特に気候感度）
- 損害の数量的・金銭的評価  
第2次報告書では費用効果の詳細な議論
- Risk/Risk Trade-off  
Co-benefitを強調、Trade-offは一言  
BECCS・大規模植林と食糧・種の多様性  
SRM（太陽放射熱管理）
- SDG（貧困克服、飢餓撲滅等17項目、CCはこの一つ）との整合性とTrade-Off
- 政治への迎合の排除（2°C、1.5°C目標）
- 日本からの発信の必要性（含む技術の可能性と限界）